

いのち
生命の水 うるおす未来

アジアネット

JAFS

NEWS & REPORTS

2023年秋

155



特集 環境自立めざす比の小さな町



since 1979

公益社団法人 アジア協会アジア友の会
Japan Asian Association & Asian Friendship Society



● 主な目次 ●

「巻頭言」新しい世代への申し送り	02
特集＝環境自立めざす比の小さな町	04～06
ネパールの防災新事業 現地報告	06・07
平和願い関西ウクライナ友好協会	08・09
第8回アジア・ユースサミット	10・11
スリランカ経済危機から1年	12
「生存のための共同作戦」を提唱	13
「井戸ができた村」	14～17
震災のトルコから感謝の言葉	18
「JAFSプラザ」＝国内の活動	19～21
見えない目で馬を駆りモンゴルの大草原を満喫／つなG O!アジア、まず「タイ」から／生命の水を贈る喜びを伝えたい／スリランカの教育問題を聴く／日銀支店長招き卓話と懇親会	
イベントカレンダー2023年秋	22・23
新入会員紹介・領収報告	24・25
「土水」育て受け継いだ40年の底力	26
「環境コラム」	27

アジア協会アジア友の会とは

アジアに井戸を贈ることから地域の自立を目指す国際協力NGOです。1972年に大阪の若者により結成された国際奉仕グループ「エポス・クラブ」が発展し、1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2023年3月現在、井戸建設（累計2254基）や植林（累計259万本）、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の社団法人取得第1号です。2012年から、内閣府の認定を受けた公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、アジア18カ国（インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン）、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、70の現地提携団体を通じ、友情のネットワークが形成されています。

日本国内でも、各地でチャリティプログラム、自然環境プログラムや、人材育成、留学生交流など行っています。

本会への寄付は、寄付金控除の対象です

JAFSは内閣府から公益社団法人としての認定を受けています。JAFSへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

巻頭言

新しい世代への申し送り



吉田 俊朗

アジア協会アジア友の会
常務理事

45年にわたる会社勤めをリタイアして8年になります。この8年間、のんびりと過ごそうと思っていまして、NGO活動や学校の同窓会活動、企業のOB会活動と各種活動にすっかり組み込まれています。会社時代に培った多少の知識と技術をもとに、少しでもお役に立てればと思って活動していますが、世の中には人生をかけてボランティア活動に取り組んでいる人も多く、その方々の足元にも及びません。ただ、自分のできる範囲でボランティア活動に長く関わればと思っています。健康面では年相応に不安はありますが、今まで大病をしたことはなく、102歳の母親の背中を見ながら生活しています。

心に関わってきました。村上市務局長の退任に伴い、この7月から週に3回事務局に出勤して、事務局運営見直しの仕事をしています。この組織も創立45年を迎えようとしており、この間、アジア各国に多大な貢献をしてきましたが、時代の変化とともに少し発想を変える必要があるのではないかと考えています。言葉では簡単に発想の切り替えと言いますが、実際に45年の歴史を振り返り、その上で見直すのは

い取り組みを図っていきなと思っています。団塊の世代と真ん中、デジタル社会についていくにはしんどいですが、このご時世、アナログだけでは通用しませんので、老骨に鞭打って少しでもデジタル機器と仲良くしたいと思っています。アナログを通り越してアナクロとだけは言われないう、精一杯頑張りたいと意気込んでいます。

私たちは、世界の平和と人間の基本的人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。かかる目的をもって私たちJAFS会員は以下のことに努めます。

- 一、地球の自然環境を大切に守ります。
- 一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。
- 一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命の価値を高めます。
- 以上

● プロフィール ●

よしだ・としろう 1948年京都府舞鶴市生まれ。民間企業で45年間勤務。リタイア後、JAFSに加えライオンズクラブなどさまざまな活動に参加。悔いのない人生を目標に酒と花を愛する毎日。好きな旅を今の楽しみにしている。2000年にJAFS入会。2022年常務理事就任。2023年7月から事務局勤務。

特集

環境自立めざす比の小さな町▼

フィリピンのソルソゴン州マトノック町は、ルソン島南端の海辺に位置する小さな町で、40村で構成されています。村人は半農半漁で生計を立てていますが、小規模で安定した収入がないため、月の収入が8000ペ（約2万円）にも満たない貧しい人々が多く住んでいます。私たちはAFSメンバーとしてJAFSと共に、住民の生命と健康を守る衛生的な飲料水供給や農業支援、台風被災者支援、マングローブ林再生のための植林などをしてきました。

（AFSソルソゴン代表 ジーナ・A・ヤップ）



堆肥化センターで堆肥作り
の実習を受ける村人たち

クリーンで グリーンな地と ブルーな川と海のため

センター作り分別セミナー

地域の近年の大きな問題は、環境の悪化です。水や土壌が汚染されることにより、農地や漁場から以前のように収穫できなくなってしまうのです。台風などの災害が多いこの地域では、町の予算は被災者支援や復興支援が優先され、ごみ対策ができていません。生活圏に近い川や海の水は生活排水やごみによって汚染され、悪臭を放っています。なす術なく不衛生な環境で暮らさざるを得ないのです。コロナ禍でさらに収入が減る村人が増える中、緊急に解決しなければならぬ課題として、私たちは住民主体のごみ管理に取り組みました。村人の声とともに活動について報告します。

まず、プロジェクト委員会を発足させ、堆肥化および育苗センターを建設しました。カマチレス村の家庭40世帯を選出し、ごみ分別セミナーを開いたり、有機ごみの堆肥化・緑化の研修をしました。

今では200kg／週（800kg／1000kg／月）の有機ごみを市場や各家庭から持ち寄り、80～120kg／月の堆肥を生産しています。循環利用することでも有機ごみを減量し、ごみがそのまま捨てられていた川や海の水質や環境が改善されます。

この堆肥化および育苗センターは、地域のさまざまな情報を提供できるり

られています。

堆肥を使った植物や野菜の栽培の実習を通して、住民間のネットワークを構築し、積極的に情報交換をすることで、地域での緑化や安全な農業を促進し、食卓の栄養改善を図ります。

それぞれ自慢の菜園や野菜を使った料理の写真をSNSに投稿し、互いの活動状況やアイデアを共有します。村人同士が力づけ合い、継続への活力となっています。

土を汚染する化学肥料をやめ、多くの人々が有機肥料で安全な野菜を栽培するようになりました。給食の提供や各家庭の栄養改善に役立っています。さらに、現金収入の少ない家庭の暮らしを支え、村で持続的に暮らせる世帯が増えるよう、事業を推進しています。

「セミナーで学んだことが自分に実践できるか不安でしたが、SNSグループで他の参加者と情報交換することができ、力づけられて続けることができています」（学生）

「緑があると涼しい気分になります。自分たちで有機野菜や果物を栽培し、食べ、健康に過ごせることを家族で喜んでいきます」（世帯主）

近隣の村からも問い合わせ

新型コロナウイルス感染症の拡大により、プログラムの回数や参加人数などの制限を受けることもありましたが、公衆衛生に対する考えや人々の価



有機ごみから堆肥作り ネット通じ世界と連帯 安全な野菜を各家庭へ

ソースセンターとしても活用されています。

村人からは「今まで生ごみの処理に困っていましたが、衛生的な堆肥化が学べ、植物や野菜をうまく育てる方法を学べるのはとても楽しみです」（主婦）といった声が寄せられています。

国際イベントに参加し仲間

地域のクリーンアップイベントを定例化し、国際クリーンアップイベントへも参加しました。

小・中・高校の子どもたちや教師・保護者会・村人・自警団・保健婦などが参加。ごみの多さに驚くとともに、きれいになった浜辺やオンラインで他のアジア地域でも同じ目的で活動している仲間がいることに力づけられました。一人一人が地域環境と併せて地球

カマチレス村では共有の農園をつくり、多くの収穫が得られるようになった。いづれもフィリピン、ソルソゴン州マトノック町

環境への意識を高め、地域・国を超えて地球全体の水環境のために行動するメンバーを増やしています。

学校や公共の場所に分別用のごみ箱を設置し、有機ごみは堆肥化へ、ペトボトルなど有価物はリサイクルに、その他のごみは行政と連携して処分できるようにしました。住民の熱意が行政を動かし、ポイ捨て禁止やごみ分別の看板も設置されました。

イベントなどに参加した子どもたちから寄せられた感想です。

「とても楽しく活動した。きれいになった海で泳ぐのは本当に気持ちがいい」（小学生）

「住宅地の家庭からのごみが、川や海にこんなにも多く流れていることにショックを受けた」（高校生）

地域の緑化と野菜栽培による住民の栄養改善にも取り組みました。

苗木は野菜や果物、花、樹木などを毎週、種類を変えて50ポット育てました。そして各家庭に緑化のために植え

値観の変化は、この課題解決に好機となつています。フィリピンの人々が、豊かな海や陸の自然の中、より衛生的な環境で持続可能に安心して暮らせること、アジアや世界の人々と連携して、地球環境保全やSDGsなどの共通目標の達成に向けて、協力していくことを願っています。

1年間活動を続けて、少しずつですが確実に住民の環境に対する意識は変わり、地域にも良い影響を与え始めています。活動を知った近隣の村からもセミナー開催や活動参加について多くの希望や要請が届けられています。学校や教会ではCLAYGO (Clean as You Go=来た時よりも美しく、行

くところすべてきれいに)の実践も始めました。一時的ではなく継続し、定着させていくためには、さらに広い地域に活動を拡大し、より多くの人が参加できる環境を整え仲間を増やすことにより、住民自身のアイデアにより新たな取り組みと具体的活動を創り出していければと思います。

日本の清潔な環境や清掃に関する意識や習慣はいつも私たちを力づけてくれています。ぜひ一度私たちの地域を訪れてください。共に活動できることを楽しみにしています。

◆この事業は、第17回OTTO水環境基金から助成を受けて取り組んでいます。

学生も加わり防災チーム

ネパールの新事業 討議重ね村人の声聴く

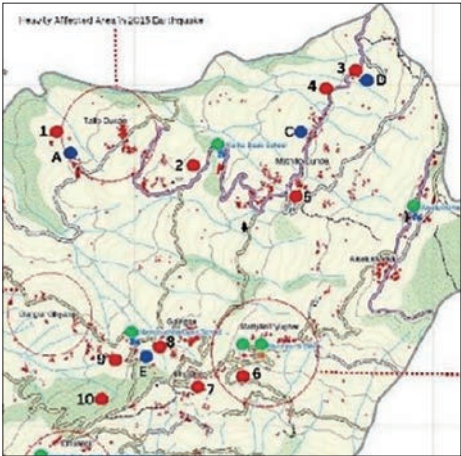
本誌153号でお伝えしたとおり、JAFSはネパールのシンドパルチョーク郡インドラワティ村で、2015年に起きた大地震から満8年を迎えた今年4月、現地提携団体AFSネパールと協力して、地震などの災害に強い地域を作る新事業を始めました。現地ではワークショップなどを開き、人々の関心が少しずつ高まっているようです。AFSネパールのレシナ・バジュラチャリヤさんと、JAFS会員の防災専門家・天野紀さんから届いた報告です。

が結成されました。

今年度は、防災活動の拠点となるコミュニティセンターや、情報を発信するラジオ局の整備を進めています。併せて、災害リスクを可視化したマイ防災マップを作りました。

インドラワティ村2区役場の職員カラワティ・スワンールさんは「8年たった今も、また地震が来た時の対策、対応が準備できていない。私たちができることをまず自分が理解し、地域の皆と具体的な活動を考えたい」と積極的に手を揚げた一人です。同じように危機感を抱いた人々が次々に集い、同村の12区全てに13人による防災チーム

5月には半月にわたり、自助・共助・公助による取り組みを考えるワークショップをしました。防災組員、自



つくったマイ防災マップの一例。赤が危険な地点、緑が重要施設

治体職員、学生らが参加し、村内全12区の170人から意見を得ることがで

大事なのは、この防災活動が、事業終了後にも地域住民の間に根付いて続けられ、地域発展にも寄与できるように、本活動の有効性を高められるロードマップを設定することです。それは、現地の人たちも同じように感じています。まずは、それぞれのチームでまとめてくれる、雨季が終わった後の各地域の土砂崩れなどの被害状態の報告を待ち、次へのステップを考えたいと思います。

防災チームには、この地域を若い世代の目でしっかりと見つめてもらおうと、5人の学生たちに加わってもらっています。

スニタ・タマンさんは4区の高校生。最初は「私にこの地域を守る事ができるでしょうか」と不安そうでしたが、ワークショップに参加して、「私たちの通学路が危険地域の1つであるなど、考えもしていませんでした。2つのプレートが合流する地域に位置していることが明らかになりました。これは、あらゆる災害が発生することを意味し、注意しなければならなことがわかりました」と目を輝かせていました。彼女の中で意識が変化し始めていました。学校内でのようなことができるかを考える計画を持っているようです。

本誌次号以降でも、この地域がどのように変わっていくかを、お知らせしていきます。

美しい村、震災・水害と隣合わせ 暮らし支えるインフラ 急ぐ必要痛感



JAFSネパール事務所駐在員 谷津都萌子

6月15日からネパールに滞在しています。前職ではSDGs市民社会ネットワークでSDGsの推進、また、国連女性機関(UN Women)のタンザニア事務所・アジア太平洋地域事務所・日本事務所、ジェンダー平等と女性のエンパワメント(力づけ)に関する

くところすべてきれいに)の実践も始めました。一時的ではなく継続し、定着させていくためには、さらに広い地域に活動を拡大し、より多くの人が参加できる環境を整え仲間を増やすことにより、住民自身のアイデアにより新たな取り組みと具体的活動を創り出していければと思います。

インドラワティ村8区役場で区長や防災チームと会議する谷津駐在員(右から2人目) 7月25日、シンドパルチョーク郡

プロジェクトに従事していました。

ネパールに来たのは4回目ですが、インドラワティ村は初めてです。同村では、湿度が高い早朝に1000mの標高から見られる雲海と、日が高く昇ってきて雲海が開けると見えてくる棚田や段々畑で水牛を率いて稲作や野菜などの栽培をする人々の光景をみるたびに、心からこの風景を多くの人に見てもらいたい

と、いつも感動しています。

しかし、同村には人々の社会生活を支える基盤となるインフラは皆無に近く、雨が降ると川ができて道が流れてしまします。車やバイクは通れず、道なき道を歩くことになるのです。

また、この地域には盆地はなく、ほとんどの人が、インドラワティ川の周

きました。その結果を、文章から単語の出現頻度によって文字の大きさを変えて視覚化するワードクラウドというグラフにし、村人がどのように行動をすべきか、また、どのような意識を持っているかを把握しました。

住民の多くは「安全な場所への避難」が重要と考えており、裏を返すと、住んでいる場所が危険であることを十分に認識していることがうかがえました。一方、避難せず自宅にとどまるという逆の意見もありました。災害に対する理解を深めるとともに、住んでいる場所の特徴に応じた行動をリードすることも重要です。コミュニティで最善の行動をとるリーダーを育て、情報を共有し、伝達する手段の構築を、まず目指します。

防災時、復旧期それぞれで取るべき行動が異なることを、日本での防災事例を現地の実情に合わせて提供し、共有できれば、被害を最小限にできるのではないかと感じています。

辺か、山の急斜面に家を建てて住んでいます。地盤が特に緩いところでは、傾斜地にある家が少しずつ地盤とともに降下してきて、年々近所の家が近づいてくるという現象も確認されています。2015年の地震では、JAFSは緊急で復興支援を行ったと聞いていますが、多くの家が倒壊し、至るところで土砂崩れが発生し、国内で最も多くの命が失われ、多くの方が被災されました。

川周辺の集落は雨期に洪水に見舞われることもあります。自然災害に対して非常に弱い地域であるにもかかわらず、災害への備えが取られているとは言えません。近くに病院はなく、外部からの支援を要請するにも時間がかかるため、緊急時に村人たちで応急処置をしなければいけない時もあります。

インフラ整備の遅れから村の人たちは不便な生活をしていますが、インドラワティ村は昔、チベットから塩の貿易が盛んで、ビジネス拠点として多くの人が住んでいたといわれています。そして、この歴史ある村には昔から住んでいる人も多くいます。ここに住む人たちが正しい応急処置の方法や防災力を身につけて、災害が起こっても安全に生活を継続することができるよう、ネパール事務所スタッフと共に村の人々の生活に合った支援活動を行っていきます。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

祖国の子どもの力に! 避難民の雇用の力に!

突然攻め入ったロシア軍と激しい戦争が続くウクライナ。現地の人々の厳しい状況を私たちJAFSに教えてくれ、在阪の避難民との間をつないでくれているのが、在日ウクライナ人のカトウ・カテリーナさんです。一日も早い停戦、平和を願い、今後もウクライナと日本の懸け橋として活動していくためにこのほど、関西ウクライナ友好協会を設立しました。その思いを聞きました。（聞き手＝JAFSスタッフ 熱田典子）

関西ウクライナ友好協会設立

在日20年カテリーナさん 一日も早い平和願い



カトウ・カテリーナさん（左端）とご両親。ご両親は一時的に日本へ避難し、現在はウクライナに戻っています

ウクライナに思いを寄せてくださるJAFSの皆さま、いつもありがとうございます。ございます。

シエルターにエアコン設置

私は来日して20年ですが、まさかこのような日を日本で迎えるとは思っていませんでした。ロシアの攻撃が始まった日から、ショックでふさぎこんでいました。日本がウクライナからの避難民を受け入れることを表明してから、避難してくる同胞たちのために何かしなければという使命感のようなものが生まれました。

幸い、JAFSと出会え、さらに以前からの友人、ウクライナの状態を心配する人たちが応援したいと助けの手を差し伸べてくださり、少しずつできることをしてきましたが、個人の窓口でする限界を感じていました。

加えて、ウクライナにいる、特にこの戦争で親を失った子どもたちのこと

ですが、私はこれからも、日本からできることを自国のためにしていきたいと考えています。

11月12日、2回目のチャリティコンサートを兵庫県尼崎市で開きます。ぜひJAFSの皆さまにもお越しいただければうれしいです。

川上さんは、働くスタッフと相談しながら諸事決めていく方向で、このレストランは、ウクライナから避難してきた人たちの働きの場所であり、居場所作り、交流の場を目指しています。（JAFS会員 植村 史子、福岡 名津子）

※レストラン・ウクライナ・ジャパン
大阪市阿倍野区阪南町1-51-6、営業時間 11時～14時30分、17時30分～21時。 <https://restaurant-ukraine.jp/index.html>

JAFS 市民病院再建急ぎ 暖かい下着配布へ

本誌154号などで紹介したとおり、JAFSは、ロシア軍の攻撃で破壊されたウクライナ、スミイ州のトロスタネツカ市立病院の再建を引き続き支援しています。

現地では現在もロシア軍による激しい攻撃が続いています。10月になると急に気温が下がり始めます。暖をとれる下着を多くの人々に早めに届けたいと考え、外務省とユニクロに協力いただいて、大人用と子供用計1500セットのヒートテックを6月に現地に送りました。病院側と相談しながら現地の人々にアンケートをし、健康状況を確認する予定です。

できました。今は2号店が開店できないかを探っているところです。1号店のような支援者とのめぐり逢いも期待しています。

8月に、オランダに避難しているウクライナの友人たちに会いに出かけました。同国には15万人以上の避難民が

大阪メトロ昭和町駅すぐの道路沿いに面しており、ウクライナ国旗が掲げてあります。川上さんの自宅を改造し、店内は2人用のテーブルが6席あり少し狭い感じですが、白を基調に明るくシンプルなデザインです。

日本人が多く来ていました。ランチは1500円の定食のみで、ボルシチ（ウクライナ伝統のスープ）とサラダと肉料理。量は私にはちょっと少なめです。ピロシキ（ミンチ、野菜、きのこなどを包んだパン）とクレープがそれぞれ500円（持ち帰り用600円）の他、単品でいろいろな家庭料理を楽しめます。

スタッフとして、ウクライナからの



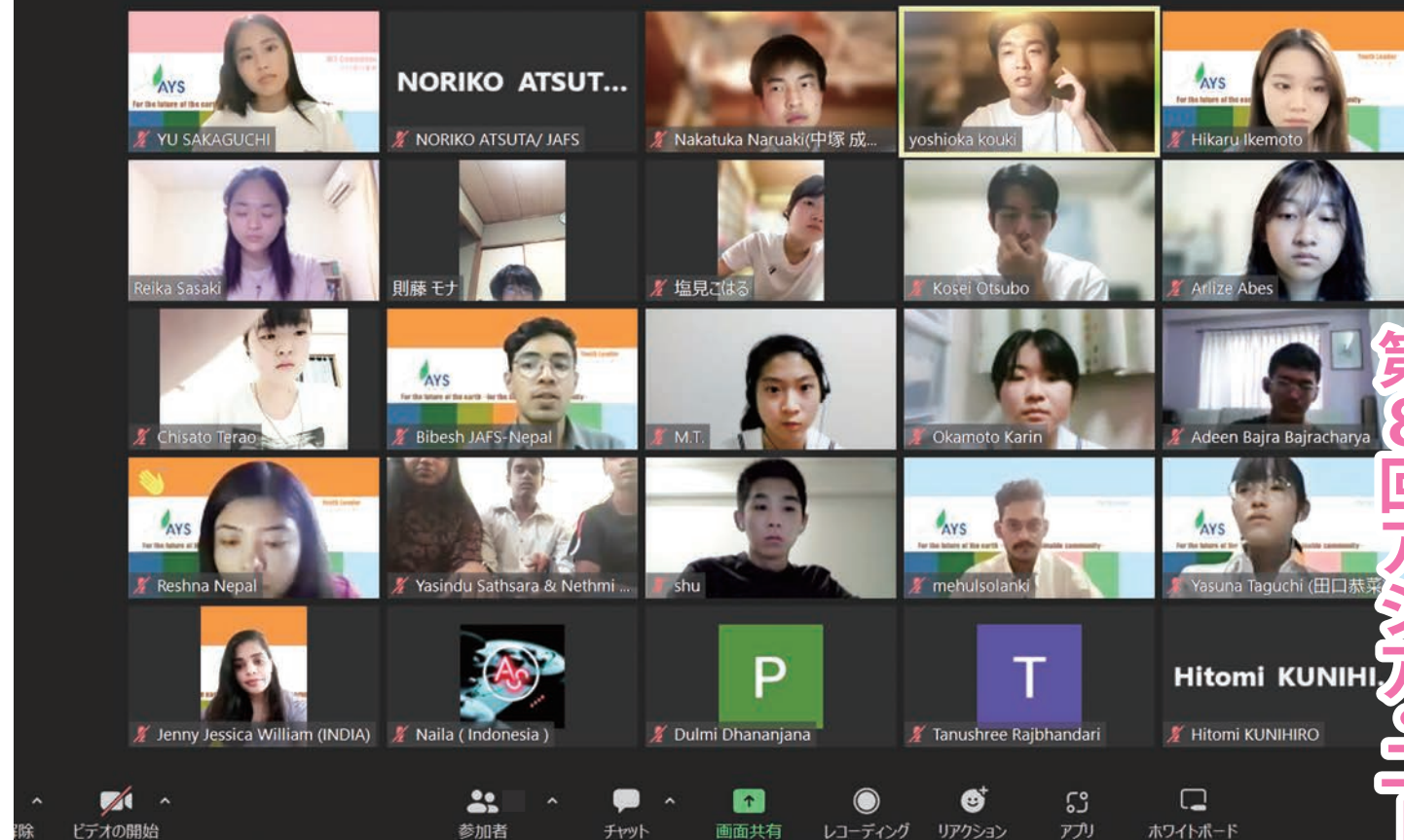
レストラン・ウクライナ・ジャパンの
店内（上）と、ランチのボルシチ

避難民8人がシフトを組んでいます。ウクライナの方は、日本財団からの支援が主な収入のようです。2人に食後にお話を伺うことができました。

ウラジスヴァさんは昨年キーウから日本へ避難して来ました。知り合いもいませんが、安全な場所という理由で選んだそうです。大学で観光学を専攻していたが、国際関係学を日本の大学で学ぶため、日本語の勉強中です。ラリサ・バルスカさんは料理が好きなので、このレストランのシェフをし

ています。ウクライナでは20年間、金融関係の仕事をしていましたが、この先日本で暮らすならレストランも開きたいとのこと。18歳の息子さんと日本へ来ています。息子さんは高校卒業、将来は日本での大学進学を考えて、日本語を勉強中です。

皆さん、明るく笑顔で話してくれましたが、今後日本で暮らすならと話す覚悟の背景には、戦争がもたらした多くの悲しみや苦しみ、不安があることが想像できました。カテリーナさんと



ネパールに最優秀賞

各国からオンラインでパソコン画面上に集ったアジア・ユースミットの参加者たち

世界の平和につながる 地域づくりを問いかけ

第8回アジア・ユースサミット(AYS)が8月19・20両日、前回に続いてネットによるオンラインで開催されました。持続可能な地域社会づくりを担う若者のリーダーを育て、ネットワークを築くことを目的としています。今回のテーマは「地域を良くするプロジェクトを創ろう 平和な地域づくりに向けて」。日本をはじめインド、インドネシア、スリランカ、ネパール、フィリピン、ミャンマーの7カ国から参加者とボランティア併せて約100人が集い、プログラム発表と討論を熱心に繰り広げました。審査の結果、最優秀賞にネパールのチームの「平和への道…ウェルビーイング(幸福)」の原則を習得する」が選ばれたのははじめ、左ページの各プログラムが受賞しました。(JAFSスタッフ 熱田典子)

7カ国の高校生がプログラム

今回のテーマは、世界中で争いが起きている今、まずは争いが起きないよう、自分たちの地域で皆が平和に暮らすことができるために、私たちにできることを、各国の人々とうながって共に探求することを目指しています。参加者は、テーマに沿った各地域の事象

を挙げながら、解決方法を模索し、共通の行動目標を持ち、実践していくためのプロジェクトを立案しました。各プログラムは内容を事前に動画で作り、8月10・17日の間にウェブ上で公開プレゼンテーションをしました。これを審査員と一般の方々に見てもらい、審査・投票してもらいました。最優秀賞に選ばれたネパールのプロジェクトは、ワークショップを通じて

子どもたちに普遍的な5つの善行を伝え、安らぎと幸福のための価値観を育むものです。

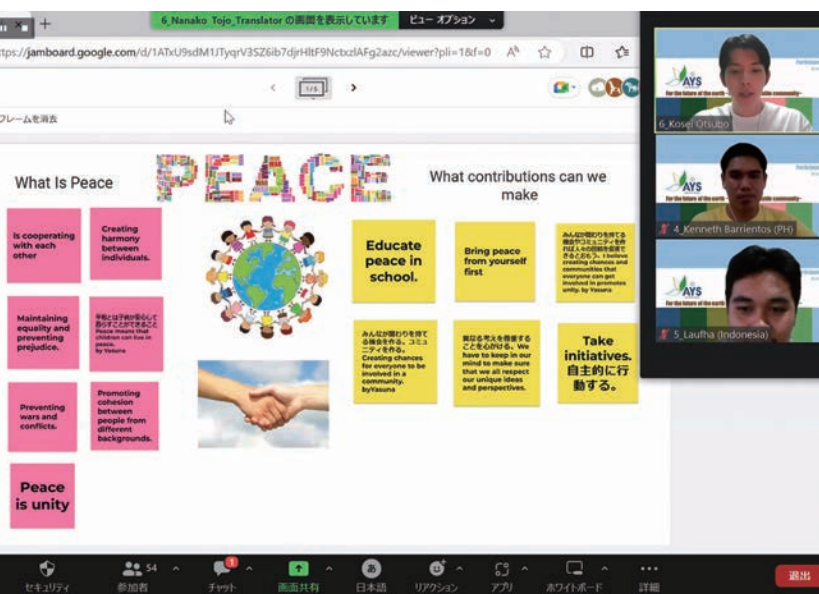
優秀賞のスリランカ「平和的つながり」は、平和な社会づくりのための社会的使命として、宗教的生活に直面する次世代を、自由な相互関係と調和から発展させていくものです。

同じくインドネシアの「手始めの資源活用プロジェクト…無駄にはサヨナラ、価値あるものへ」は、地域住民に家庭廃棄物への対処と活用について関心を持ってもらうために、廃棄物を環境にやさしい酵素や野菜に変える取り組みを考案したものです。

さらに参加者たちは、6つのグループに分かれて討論しました。プレゼンテーションの中に出てきたそれぞれの「地域の課題や課題」のうちから共通な事項をいくつか取り上げ、話し合いました。今回のテーマに沿って架空のまち「AYSシティ」を想定し、より平和な町とするために、

それぞれのグループが考える平和とは何か
誰に何をすべきか、何ができるか
想定される課題と壁
その課題に対する取り組みや行動などをまとめました。

討論に先立ち、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(JANIC)の



各参加者がプロジェクトを発表し、討論する画面は今回のテーマ「PEACE=平和」の文字が躍った。

端無勝・審査委員長の話 今回初めて審査委員特別賞をつくりました。審査委員たちの評価が一番高かったプロジェクトをぜひ顕彰したいという理由からです。自治会という地域の組織に着眼したプロジェクトに授与しました。

自治会に着眼した発表に特別賞

低かった協働力をちよつと克服

最優秀賞を受賞したネパールのアディン・バジュラチャリヤ君の話 動画を作るとき緊張して、十分だとは言えない出来だったのですが、プロジェクト内容を評価してもらえて大変うれしかったです。僕は、勉強が好きですが、人と協働するなどのコミュニケーション能力が低く、それを克服したいという気持ちからAYSへの参加を決めました。ディスカッションでは十分に話すことができませんでしたが、AYSでの経験をプロジェクトに生かして、状況を皆さんにお知らせしていきたいと思ひます。今後も応援してください。



https://jafs.or.jp/ays/news/report/8thays_declaration.html

行動宣言文を採択

9月9日に行動宣言文採択プログラムをオンラインで実施しました。「資源をめぐる対立や紛争がなく、個人間の調和が生み出された公平で平和な地域」をつくるために行動すべき内容を、宣言文としてまとめました。

宣言文の詳細は左記のURLやQRコードからご覧いただけます。

受賞したプロジェクト

- 最優秀賞 「平和への道…ウェルビーイング(幸福)の原則を習得する」ネパール
「手始めの資源活用プロジェクト…無駄にはサヨナラ、価値あるものへ」インドネシア
「命を救え!エコキャップinポートアイランド」神戸学院大学付属高等学校
■審査委員会特別賞「自治会から考える平和な地域づくり」京都 暁星高等学校

堀内葵さんが、平和を築くために市民社会から声をあげ、行動し続けることの意味について基調講演。参加者たち

は、バン格拉デシユのNGOの若者らが現地で行っている事業の話も聞き、事業立案への参考としました。

経済危機から1年 心1つに

スリランカサルボダヤの取り組み

スリランカが深刻な経済危機に直面してから1年。逆境の中で不屈の精神が今再び前に出ています。私たちのサルボダヤ（JAFSの現地提携団体）は、社会のさまざまな側面にわたって回復と変革をもたらそうと力を尽くしてきました。教育、経済、生活環境、若者への励まし、地域福祉、宗教的調和などに焦点をあて、危機に瀕するスリランカで、人々を団結させ、革新させる取り組みをしています。（サルボダヤ副代表 ラビンドラ・カンダゲ）

子どもへの支援に感謝

最も心強いのは、海外の仲間からの子どもたちへの支援です。危機の影響を受けた子どもたちは成長に必要な食事を取ることも、学校で必要な学用品を用意することもできません。

深刻な栄養失調状況にある子どもたちに半年にわたり栄養のある食事を準備し、将来を形作るリーダーシッププログラムを実施しました。学校の文具、制服、書籍などの支援によって地域で子どもたちを守り育てる取り組みが、教育にいきなりパワーを吹き込めるかを実感しました。子どもたちが明るい明日を思い描き、努力する気持ちを

多民族・多宗教の壁を超えて手を
つなぎ合うサルボダヤの仲間たち



持てたのは何よりうれしいことです。

起業助成し安全な水確保

多くの人が失業しました。私たちは多くの地域を訪問・調査し、選ばれた人にシードグラント（小規模な仕事を始めるための助成金）を送りました。起業するために必要な研修をし、自身の創意工夫によって生きていくための収入が得られるよう、1年以内の起業を目標にしています。

すべての物資が不足し、限られた資源をめぐって争いが起きています。特に重大なのは「水」です。

JAFSとの連携により、緊急性の高かったポロンナルワに5つの井戸が建設され、必要不可欠で安全な水が得られるようになりました。農業用の水路の修復にも力を入れました。水によって新たな命を吹き込み、経済と地域の生計の両方を強化しました。

若者を力づけ未来を開こう

明日のリーダーの役割を担う若者を力づけるのも重要課題です。若者は地域社会の課題やニーズを特定し、具体的な行動計画を立てていきます。彼らの積極的な参加は、スリランカを変え

ていく可能性を実証しました。自信を与えることで、明るい未来を切り開く有能な担い手となります。リーダーシップトレーニングを通じて、理論的で実践的な知識、コミュニケーション、イベント管理におけるスキルを磨くことができました。

貧しい人たちに食べ物

サルボダヤは企業や団体と連携し、食べるものがなく暮らしていくことができない低所得層を支援しています。女性世帯主や障がい者、日払い労働者、固定収入のない家族らです。長引く不況で、路上で暮らす人も増えています。地域の福祉は依然として復興途上にあり、私たちは当初からしてきたコミュニティキッチンやフードバンク、菜園プログラムなどを続けて、コミュニティの団結をより強固なものにしています。

今、25カ所のサルボダヤ地区センターがフードバンクとしての機能も兼ね、各地域の情報を共有し、積極的に活動することで少しでも多くの人々に有効に食べ物が届けられるよう活動しています。私たちの活動は小さなことの積み重ねですが、村人の意識を変え、互いに助け合うコミュニティ作りにつながっています。

この危機を私たちが乗り越えられるよう、引き続きご協力ご支援お願いします。

「争いでなく生存のための共同作戦を」

インドAFSバンガロールカムレ代表がスピーチ



アジアフレンドシップ国際基金に5万円寄付

今年度のJAFS総会に参加したインドのAFSバンガロール代表のM・R・カムレさんから4人が6月15日夜、大阪市内で開かれた「インドメンバーを囲む会」で、JAFSの国際協力支援活動に役立てるアジアフレンドシップ国際基金に1人100ドルずつ計400ドル（約5万8千円）を寄付。カムレさんが「JAFSはすでにアジア18カ国でネットワークを構築しています。このネットワークを通じてアジアのビジネスマンが交流を深め、アジアの貧困撲滅に貢献したい」と次のようにスピーチしました。（JAFS副会長 法花敏郎）

今、世界は、さまざまな課題に直面しています。コロナ流行は、世界中に社会的、経済的に悪影響を及ぼし、多くの人々の命を奪いました。一方で、ロシアとウクライナ間の戦争も起き、アジアだけでなく、世界中に大きな影響を及ぼしています。

さまざまな悪影響がある中で、アジアは急速な経済発展を遂げています。その結果、私たちの生活も「不足」から「豊か」に変わっていきます。富は人間の欲望を実現し、幸福な人生を送るための最も重要な要素であります。歴史は、大きな富と利益を得るために競争と闘争が行われてきたことを教えてくれています。経済的な繁栄は人生を楽しく幸せにしてくれることは間違いないですが、人間らしい生活を実現するための正しい方法とは言え

せん。お互いに分かち合い、思いやることで、アジアの人々の間に調和と良い絆が生まれます。

西洋の人生観は基本的に生存のための闘争であるのに対し、アジアの人生観は基本的に生存のための共同作戦です。アジアの人々は、アジアの精神と文化を通じて人類に持続可能な幸福をもたらす潜在的な可能性を持っています。私たちは、純粋な社会的ネットワークを活用し、人間関係を促進し、それによってビジネス、教育、健康、コミュニティサービスにおいて相互利益を得るための強力で活気に満ちた人間的要素を構築する必要があります。

JAFSとAFSは、すでに18カ国で友好と相互信頼に基づくアジア全域の国際ネットワークを構築しており、この人間関係を利用して、アジアのビ

ジネスマンがあらゆる事業や交友関係を構築し、ビジネスの優れた実践を他のメンバーと共有できます。このように私たちの関係性は、スポーツ、交流事業、セミナーなどの開催を通じてアジア社会の貧困の撲滅に貢献することを目指すとしています。実は、これらのイベントは2019年に計画されていたのですが、コロナ流行でそれ以上追求することができませんでした。

この点については、次のような活動が可能です。①交流事業によるビジネス促進 ②スポーツその他の慈善活動による資金調達 ③アジア国際ネットワークセミナーの開催 ④年次国際会員総会の開催 ⑤アジアの交流支援と持続的な拡大。今日の会議がアジアの人々の問題に目を向け、アジアの社会経済的發展のために前進することを切に望み、信じています。



AFSバンガロールの一行は6月10日のJAFS総会に合わせて来日。国際基金を募るチャリティゴルフを開催する予定でしたが、雨で日程の調整がつかず、6月14・15両日、富田林、堺両市のゴルフ場で日本側のJAFS会員らとラウンドしました。

国際基金はアジアネットワークセミナーなどJAFSの国際協力支援活動に役立てるために設立。ゴルフのほか「旅は道連れ会」などの活動を通じて基金を集めています。

子どもの下痢の心配いらず

これまで安全な水がなくて衛生的に過ごすことが難しく、子どもたちは暑い時期に頻繁に下痢をし、皮膚病が大変はありました。これからは子どもたちの健康を守ることができます。この水を活用してどんな野菜や花を植えようと、集落では最近話題になりました。つい先日までは、水くみの苦労話が話題になっていましたので、大きな違いです。これまで植えることができました。そして少しずつ生活を向上させます。心から感謝申し上げます。



バグマティ州シンドウパルチョーク郡ボテシパ村
受益者…6世帯
井戸の形式…水道パイプライン式

【寄贈者】釈 良松様(中村 芳喜) 様

【寄贈者】ギャラリーいろはに 様

野菜を作り家畜を飼って収入

これまで20kg以上の水がめを毎日数十分、3～4回運ばなければならませんでした。年寄りだけの世帯は体力的に辛くても、水くみに出かけなければ水を飲むことも料理をすることができず、年々その厳しさは積もっていました。このたびのご支援は私たちの生活を劇的に変えてくれました。管理が必要なため水道代金を払う必要がありますが、野菜作りや家畜を飼うことにより収入を得るすべが生まれました。皆さまのご支援の大きさをいつまでも覚え、生活を向上させていきます。



バグマティ州シンドウパルチョーク郡ボテシパ村
受益者…8世帯
井戸の形式…水道パイプライン式

蛇口の水に歓声

水源の水量が地震の影響で激減し、乾季には1時間、2時間も水を探すことがありました。かめ1杯の水で1日過ごさなければならぬ日もありました。各戸に水道が設置され、蛇口から水が出たときには、家族全員から歓声が上がりました。これまで水のために大変な苦勞をしてきましたが、その苦勞が皆さまのご支援のおかげで終わりになりました。今までの暮らしから180度の変化です。この水により健康的で自立した生活を送れるように、力を合わせていきます。



バグマティ州シンドウパルチョーク郡ボテシパ村
受益者…4世帯
井戸の形式…水道パイプライン式

【寄贈者】堺 佐藤手芸教室 様&堺ギター教室Part II 様

ご寄付には
税の優遇措置が
受けられます

いのち 生命の水 うるおす未来

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真、パネル写真を届け、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸1基の建設に必要な費用■ (2018年4月改定)

インド=60万円 フィリピン=33万円
カンボジア=28万円 スリランカ=22万円
ネパール=17万円 (パイプライン=25～150万円)
バングラデシュ=浅井戸22万円、深井戸55万円

※5年間のメンテナンス費、現地管理費を含む概算です。※現地資材費高騰により費用を1割増に変更させていただきます。ご理解ご協力をお願いいたします。

■お振込み先■ ・郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会
・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会
06-6444-0587 へ

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

みなさんのおかげで 井戸ができた村

家で水くめる夢が実った

2015年の地震によって私たちの水源の水量は減り、水を得るために苦勞の毎日でした。20kg以上になる水がめを毎日数十分、3～4回運ばなければならませんでした。ご支援により、自分たちの家で水をくめるようになるという夢のような現実が、私たちの日常にやって来ました。これからは水の管理が行われ、その水が配水されるため、衛生面も安心です。何よりも重い水がめを運ぶ作業がなくなったことで、体力的にも精神的にも安心を得ることができました。

バグマティ州シンドウパルチョーク郡ボテシパ村
受益者…6世帯
井戸の形式…水道パイプライン式



【寄贈者】長知子 様

収入が少ない家にも水道

大型パイプラインから各戸に水道を引くことができるというアナウンスが村に入りましたが、私たちは十分な収入がなく、日々の生活を何とか回している状況なので、水道を引く費用を捻出できませんでした。どのように工面するかを考えておりました。ご支援によって引くことができ、雨季の前に完成できました。今後は雨季の最中に水くみをして滑ってけがをする心配をする必要もなくなりました。これからは、水による健康障害も少なることでしょう。

バグマティ州シンドウパルチョーク郡ボテシパ村
受益者…6世帯
井戸の形式…水道パイプライン式



【寄贈者】東代 清隆 様

経済危機の国に代わり井戸建設

この村には水源や井戸がない上に貧しい家庭が多くあります。政府が優先して水確保を推進する候補地とし、一部で水供給施設の建設が始まりましたが、国の経済危機により計画のまま止まってしまいました。計画が実行されても、高い価格で水を買わなければならない、買える経済的状況にある村人は多くはいません。そこでJAFSの現地提携団体SARVODAYAが調査をし、村人たちと相談しながら、現在の場所に井戸の設置を決めました。井戸が完成し村人たちはとても喜んでます。



【寄贈者】(株)グローアップ様

北中部州ポロンナルワ県タラパタルワ村
受益者：15世帯58人と近隣村人50人
井戸形式：露天式（深さ10m）

【寄贈者】(株)国元商会様

自由に使える井戸で不平等を解消

ヌエバエシハ州サンアントニオ市サンフランシスコ村
受益者：15世帯75人と近隣農民
井戸の形式：ポンプ式（深さ30m）



村にはこれまで共有の井戸がなく、井戸がない家は井戸を持っているいくつかの家に水をもらうお願いに行かなければなりません。それが村人の尊厳と自信を失わせていました。水環境が不平等なので、差別にもつながっていました。安全な水の供給が、何よりも村の最優先事項でした。現地提携団体KALIPiが村人と話し合い、この集落に井戸を建設することとなりました。水くみの時間や量に制限がなく、村人たちが自由に使える井戸が初めて建設されたのです。

乾燥地域においしい水

村には古い浅井戸が1基ありましたが、水量が少なく、底に湧き出る水を長い時間をかけてくんでいました。村の周辺にも大きな水源はなく、村人が必要な水を得ることは難しい状況でした。このたび寄贈を受け、毎日安全な水を得ることが可能になりました。乾燥地域であるため、なかなか良い水脈を見つけることができず、何度か掘り直しが必要だったために、完成までに本当に長い時間がかかりましたが、きれいでおいしい水が得られるようになり、喜びもひとしおです。



【寄贈者】(株)グローアップ様

ヌエバエシハ州カラングラン町ブンガ村
受益者：23世帯160人と近隣農民90人
井戸形式：ポンプ式（深さ37m）

【寄贈者】渡辺 治彦様

低カーストの人が自由にくめる水

マハラシュトラ州ナグプール県サライメンダ村
受益者：約500世帯
井戸の形式：ポンプ式（深さ158m）



この地域はどの村もカースト（身分制度）によって分けられており、サライメンダ村は低カースト層の少数民族の人々が暮らす非常に貧しい地域です。低カーストの人々の生活は、あらゆる場面で制限や制約があり、現在でも村人たちが水をくむ場所は制限されています。十分な飲料水が確保できず、遠方まで水くみに行っていました。村に新しく井戸ができたことで、村人たちはいつでも安全な飲み水を豊富に得られるようになり、安心して暮らせる環境の第一歩となりました。

井戸ができて女子も勉強できる

村にあるさまざまな問題の中で特に水は大きいものでした。伝統的・文化的に母親の家事を手伝う立場にある女の子は、朝早く起き、水がたまっている場所を探しに行く必要がありました。そのため勉強する時間を十分に取れず、男の子たちに比べ、学業の成績が良くありませんでした。しかし井戸が設置されて、水場を探す必要がなくなり、彼女たちは学習時間が確保できるようになりました。これから、彼女たちの学力も向上していくことを期待しています。



【寄贈者】南野 紀美子様

カルナータカ州ビジャプーラ県イブラヒムル村
受益者：約200世帯1000人
井戸の形式：ポンプ式（深さ146m）

【寄贈者】相良 拓弥様

北中部州ポロンナルワ県モナラタンナ村
受益者：18世帯95人と近隣農民90人
井戸の形式：露天式（深さ7m）



貧しい村人に安全な水

コロナ以降、スリランカでは大規模な経済危機となり、生活必需品である食料、水、薬、電気、ガソリンなどが倍以上に値上がりし、貧しい村人の生活は苦しくなる一方でした。村に井戸がありませんが、市販の飲み水を買うことはできません。長年、安全な水が飲める井戸を待ち望んでいた村人は、井戸の建設にとっても協力的で、技術者がする作業以外は、ともに働き、井戸周辺のプラットフォーム作りや道路整備をしました。井戸の完成に心から感謝です。



国内外のさまざまなイベントをHPに載せています。記事についてのお問い合わせはJAFSへ。裏表紙にアドレス、連絡先

見えない目で馬を駆り モンゴルの大草原を満喫

モンゴルを訪問し、馬にまたがって草原をトレッキングする中島千恵さん（中央）。右隣が母・小夜子さん＝7月



ぞうすいの会で話す中島千恵さん（右）。左隣が母・小夜子さん。7月11日、大阪市西区

視覚障がい者を支援する私たちの社会福祉法人日本ライトハウス情報文化センターは、大阪市西区江戸堀1丁目のJAFS事務所のすぐ近くにあります。同センターの利用者である中島千恵さんと母・小夜子さんが7月11日に開かれたJAFS事務所のぞうすいの会に参加し、大草原の国モンゴルを訪問した体験を語りました。

千恵さんは、モンゴルの草原を馬で駆けることに憧れていました。7月初め、閑空からパートナーと小夜子さんの3人でモンゴルへ旅立ちました（毎年7・8月のみ直行便があるとのこと）。首都ウランバートルから150km北にあるキャンプ場へ行き、8日間にわたり、午前2時間と午後3時間、モンゴル馬でのトレッキングを満喫してきました。

まれな大雨と洪水に遭って満天の星空は見られなかったものの、モンゴルの料理と大好きなビールで食事し、ゲルで宿泊、現地スタッフと交流、そしてトレッキングを楽しみました。ぞうすいの会での発表では、小夜子さんと共に、現地での体験を写真を映しながら楽しく語ってくれました。

千恵さんは当センターのボランティアでもあり、広報活動の協力者でもあります。8年前に視覚障がいになり、看護師の仕事は休職のやむなきに至りましたが、学校などで視覚障害者の理解を深める講演をしたり、「ブラインドメイク（視覚障害者もお化粧を楽しむ！）」という活動でベトナムへ出張したりするなど、エネルギーに活動しています。これからも、この国でも、障害があってもなくても、誰もが笑顔で自己実現できる社会を目指して活動されることを、私たちは期待しています。

（社会福祉法人日本ライトハウス
情報文化センター館長 竹下 亘）

2月のトルコ・シリア地震 JAFS支援金に感謝の言葉



地震で壊れたムスさんの家＝トルコ、ハタイ県

JAFSは2月6日に起きたトルコ・シリア地震で支援の行き届いていない被災者、避難で生活状態が悪化した被災者たち計15人に、大阪トルコ文化センターを通じて支援金を送りました。ご協力ありがとうございました。支援を受けた方々から感謝の言葉が届きました。

「物価高で苦しい暮らしに光」

私は、トルコのハタイ県出身のムス（仮名）と申します。日本の方々がトルコの私たちのことを思ってください。友好心が、私に安心をもたらせてくれます。

街でした。地震によって90%の建物が倒壊した、被害の一番大きな場所です。私の家もその1軒で、中に入ると2次災害の危険がある状態です。政府より1万トルコリラ（約5万円）の支援が1回ありましたが、たったそれだ

けでした。

私たちの家族4人は現在、ハタイを離れて生活しています。離れたくはなかったのですが、テントやコンテナによる避難生活に疲れて違う地に移住する人が多く、ゴーストタウン化しています。政府は壊れた建物を撤去すると言っていますが、工事は一向に始まりません。私は数学教師でした。学生に数学を教えることが生きがいですが、人が減った地域で学校も再開されず、私たちもハタイを離れるしかありませんでした。しかし別の場所で教員の職をすぐに見つけることは困難で、今は家庭教師の職を見つけて少し現金収入を得ています。一家が生活するにはギリギリです。

「今月もなんとか生活できます」

アリメ（仮名）さんは、3人の子どもを育てるお母さんです。夫を亡くし、子育てをしながら地震後の避難生活を送っています。

日本の皆さま、この度はありがとうございました。

私はマラシユ県に住んでいて被災しました。子どもが小さいためにアンカラの親戚に身を寄せてしばらく生活していました。大変小さな部屋に4人で過ごし、数カ月で限界が来ました。そ

現在、トルコにはシリアなどからの難民が1000万人以上暮らしています。国民8500万人に対して大変な割合です。それが原因で大変な経済危機が起きています。

トルコでよく食べられるスイカは1玉100〜200円でしたが、今はその値段で一切れしか買えません。カットされたスイカがトルコで販売されたのは初めてでした。アパートの家賃も高騰し、1カ月の給与と同額。物価が高騰しています。定収入がなくなり、生活がどんどん悪化してきた私たちにとって、これからの生活がどうなるかわからないですが、ご支援は私たち一家に明るい光を差しました。ここでもう少し頑張っていきたいです。

のため別場所に部屋を借りました。少し大きいのですが、家族で生活できそうです。

しかし、部屋代はどんどん値上がりしています。大学を卒業しても仕事がない今、私に定職は見つかりません。私たちの状況を知った人たちが助けてくれますが、食べ盛りの子どもたちを養い生活を維持していくに毎日必死です。そのような中、皆さまからのご支援でまた今月もなんとか生活できます。ありがとうございました。

つなGO!アジア、まず「タイ」から



「つなGO!アジア」は、そんなもや感が原点でした。

「タイ」をテーマにして7月17日、炎天下の奈良基督教会（奈良市）で第1回を催しました。タイと日本の学校間交流を20年間続けている企業経営者・田中正之さん（大阪府茨木市在住）を講師に、と会員の人脉で提案されたのがきっかけでした。

田中さんは、スロースポーツを楽しむ人柄そのままに、「タイと日本の魅力」を多くの画像や動画を織り交ぜて話してくれました。

教会の附属幼稚園では、キリスト教を起源とする直径12mのラビリンス迷路を会員たちが汗だくになって庭いっぱいに描き、多くの親子が楽しめました。写真。地区会が自前で準備したタイフードの試食、奈良ならではの勾玉作り体験などもあり、盛りだくさんのメ

スリランカの教育問題を聴く

コロナ禍で中断していたサルボダヤ友の会のスリランカ講座を8月5日、

大阪市西区のJA F S事務局会議室で再開しました。今回が第30回で3年ぶ

り。神戸大学大学院に留学中のアーメット・ネイ・シユレイヤさん写真中央を講師に招き、スリランカの教育問題と今後への課題を丁寧な解説していただきました。

同国は政治・経済的に大きな問題を抱えており、今後、教育格差を小さくして優秀な若者がより多く国内で活躍できるような政策が必要とのことでした。どの国でも、人材育成への投資が将来の希望につながるということなのでしょう。

当日の参加者は20名。対面の講演会を楽しみ、さらにシユレイヤさんのレシビによるカレの提供もあり、明るく楽しい友の会になりました。

これを契機に、サルボダヤ友の会も今後の活動をどのように発展させていくかを、もう一度みんなで考えたいです。読者の方からも建設的なご提案をいただけ

ニューとなりました。参加人数は約30人でした。いつもながらPRには苦労しましたが、楽しんでもらえたという手ごたえと充実感が得られ、奈良地区会の大きな励みとな

生命の水を贈る喜びを伝えたい

第4回ノアノアフエスタを、大阪市のノアノアカフェで7月1日、心理学者の田中正晃先生を迎え開催しました

写真。先生の実話からなる渾身のメッセージを一同感動して聴きました。コロナの影響でこれまで数度延期になっていました。開催計画を何度も何度も変更しながら、なにわ南地区世話



りました。第2回、第3回に向けても、すでに構想は描かれつつあります。

（JA F S会員、奈良地区会長 伊藤誠）

人みなさんにいつも地区会例会に出席していただき、フェスタを成功に導くことができました。

なにわ南地区会は「JA F Sを家族単位で理解し、感動し、入会し、共に情熱を持って、喜んで、楽しんで活動する」心をテーマにしています。インフラ整備がほぼ完全に整う現代に生きる日本のみなさんに、生命の水である井戸を提供できる素晴らしい、自らが生きる感動と他者に生かされている感動とを共に伝え、ビジョンを共有できるきっかけになればと思っています。

今後、JA F Sの理事の皆さんにも順番で講師としてお話しいただき、JA F Sの素晴らしい働きを伝えていただきたいと願っています。井戸の感動をYouTube動画などで公開し、多くの皆さんに見ていただくことでJA F Sの支援先の明確なニーズが理解でき、個人も企業も共にビジョンと喜びを持って参加されるのではと期待しています。

（なにわ南地区会長 メ木泰輔）

れば幸いです。

当日の講演のスライド（英語版）とカレのレシビをご希望の方は、下のQRコードから読み取ってください。

（JA F S会員 安藤幹雄）



日銀支店長招き

卓話と懇親会

日本銀行理事・大阪支店長の中島健至氏による卓話と懇親会が7月24日、大阪市天王寺区のホテルアウイナ内レストランカステロで開かれ、約30人が集いました写真。

卓話では、為替と株価の変動に大きな影響を与える日銀の金融政策が、ちようど世界の注目を集めているタイム

リーな局面で、貴重なお話を伺わせていただきました。関西の金融経済動向から世界経済の大局的な動きまで、わかり易くご説明いただきました。

懇親会ではビュッフェ形式で少し豪華なディナーを堪能しました。コロナ明けで持ち直しの兆しを見せてきた関西経済と同様に、JA F Sの活動の明るい未来を連想させるポジティブな会合となりました。

（JA F S会員 唐木裕司）

● 投稿規定 ●

本欄では、国内各地のJA F S会員の皆さんの活動ぶりを紹介しています。誰が、いつ、どこで、どのような趣旨で、どんなことをしたか、などをかみくだいて分かりやすく書き、筆者名を添えて、「JA F Sプラザに掲載希望」と明記し、メール、郵便、ファクスなどで事務局へお送りください。写真付きを歓迎します。原稿をさらに推敲・編集したうえで掲載させていただきます。

JAFSチャリティイベントカレンダー

2023年秋



月	日	地域	行事名	時間	実施場所	参加費	内 容
10月	6日(金)	生駒市	アイビー歌声サロン in生駒	15:00～16:30	生駒市STAはばたきリハースル室 近鉄けいはんな線学研北生駒駅から徒歩10分	700円	腹式呼吸を目指し、出席者からのリクエスト曲をキーボード生演奏で、皆さんと一緒に歌います。 ●窓口：有山加代子 090-8377-5151
	7日(土)	大東市	JAFSチャリティハッセル&ステージ ※雨天の場合は、翌8日(日)に開催。8日が雨天の場合は、翌9日(祝)に開催します。	10:00～16:00	JR住道駅 北側デッキ広場	無料	楽しく多彩なステージを楽しみながら、美味しい料理を味わい、フリーマーケットで買い物を楽しむことでアジアへ井戸支援を行います。 ●窓口：鳥居 090-5663-6123
	10日(火)	西区	第405回JAFSそうすいの会 インドネシアエコツアー報告	12:00～13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	9月に実施したインドネシアバリでのエコツアーについて、スタッフが報告します。美味しいそうすいを食べながらアジア現地への井戸支援を行います。 ●窓口：事務局 柿島 06-6444-0587
	10日(火)	西区	ワンコインセミナー「マジックも楽しめる！色にまつわるいろいろな話」（皆が驚く初耳学）	15:00～15:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	講師：マジック流色彩教材クリエイター 濱崎 佳尚 目の前30cm程の至近距離で繰り広げられる色彩変化などのテーブルマジックを楽しみながら、日常生活や仕事に役立つ色彩心理の効果をお聞きします。 ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123
	13日(金)	生駒市	アイビー歌声サロン in生駒	12:30～14:00	生駒市たけまるホール 多目的室 近鉄奈良線、大阪メトロ中央線生駒駅よりすぐ。	700円	腹式呼吸を目指し、出席者からのリクエスト曲をキーボード生演奏で、皆さんと一緒に歌います。 ●窓口：有山加代子 090-8377-5151
	14日(土)	西区	JAFS地区会長・世話人会&新入会員ウェルカムパーティ	10:00～13:30	肥後橋官報ビル8階会議室（会長会）5階JAFS会議室（ウェルカムパーティ） 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	2000円 （新入会員は1000円）	各地区会の会長・世話人が一堂に会し、各地区の活動状況について報告するとともに、新たな活動について話し合います。また新入会員ウェルカムパーティ（12:00～）を開催。12:30からは交流会も行い、お互いの親睦を深めます。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	14日(土)	西区	第5期JAFSアジア市民大学 第2回 地政学からみる日本とアジア：アジア主義を考える	14:00～16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	一般2400円 会員2000円	地政学思想、地政学が専門の賢一穂氏が地政学の視点から「アジア主義」（日本と他のアジア諸国との関係やアジアの在り方に関する思想や運動）について戦前から現代にいたるまでの変遷について語ります。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	14日(土)	住吉区	留学生と一緒に料理とお話 ネパールデー 【主催】JAFSネパールへのかけ橋 【共催】大阪友の会	10:00～13:00頃	大阪友の会 大阪市住吉区山之内4-6-19	大人1000円 子ども500円（材料費・一部ネパール応援費含む）	1. ネパール餃子モモをつくろう！ ネパール人の実演でモモをつくってラッシーと一緒にいただきます。 2. ネパールの絵画コンテスト ネパール現地の小中学生が描いたネパールを紹介する絵画20点を展示します。素敵だと思った3点を選んでください。表彰しエコパックのデザインに採用します。 3.留学生にネパールことを教えてもらいます。 ※持参品：エプロン・三角巾 ●窓口：事務局 熱田 TEL06-6444-0587
	19日(木)	滋賀県	第22回JAFS道楽の会 ウォーキング	11:00～15:00	11:00JR湖西線比叡山坂本駅改札口集合～大津港展望デッキで解散。	1000円	比叡山坂本駅から湖岸をゆっくり歩きます。途中、湖岸緑地唐崎苑にて昼食。びわこ大津館イングリッシュガーデンまで歩きます。ウォーキングに参加することでアジア支援のチャリティ募金を行います。 ●お申込・お問い合わせ：石原 090-1134-3085
	20日(金)	西区	第2回 JAFSフォーラム 「アジア諸国の経済状況と貧困・水インフラの関係～データ分析と支援現場から～」	18:00～20:00	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円	アジア諸国の経済状況と貧困・水インフラの関係について、データ分析と支援現場の実情報告から現状を理解したのち、どのような水支援活動が求められるかについて意見交換し、JAFSの活動の方向性を探求します。 ●窓口：政策審議委員会 川本 06-6444-0587
	21日(土)	西区	アジアの仲間座談会 第5回「ウクライナ編」	13:00～15:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円	在日20年、関西ウクライナ友好協会代表 カトリ・カテリーナさんにウクライナ文化、習慣、日常生活等のお話を聞きます。お話を聞きながら、自由に考えていること、聞きたいことを話し合います。 ●窓口：佐藤 06-6444-0587
	24日(火)	市日生備前町	アイビー歌声 in 日生	14:30～16:30	岡山県備前市日生町日生2219-4（元パル美容室）	500円	歌に合わせて手話を習います。腹式呼吸を目指し、出席者からのリクエスト曲をキーボード生演奏で、皆さんと一緒に歌います。 ●窓口：鳥居 090-5663-6123
	28日(土)	西宮市	なにわ西チャリティウォーク 「チンチン電車に乗って堺の歴史と和菓子を楽しむ」	10:00～	10:00 阪堺電車 天王寺駅改札口前集合	1,000円（一部をインド児童の教育支援に充てます） 別途1日フリー乗車券600円 南宗寺拝観料400円	※案内は大阪歴史案内人 沖本 然生氏。 大阪では珍しくなったちゃんちゃん電車に乗って、歴史とお菓子を楽しみながら堺の歴史を探索します。 ●コース：天王寺→高須神社→江戸時代から残る町並み散策→与謝野晶子生家跡、千利休屋敷跡等見学、宿院→昼食（そばちくま）→南宗寺→浜寺駅前→天王寺 ●窓口：伊藤 勝 090-2410-5529
11月	3日(金・祝)	京都市	kokokaオープンティ2022 活動紹介ブース出展	10:00～16:00	kokoka京都市国際交流会館 京都市左京区栗田口鳥居町2ー1 一般用駐車場	無料	ボランティア団体等の活動紹介を通して、来場者に社会や世界とのつながりを感じて、様々な取り組みや活動の場を知ってもらいイベントです。万国屋台村やステージ、スパイスマーケットもあります。JAFSの活動紹介もします。当日お手伝いいただくボランティア大募集。
	5日(日)	天王寺区	第4回日本語スピーチコンテスト 【共催】大阪国際交流センター	14:00～16:30	大阪国際交流センター小ホール 大阪メトロ谷町線または千日前線谷町九丁目駅より徒歩約10分	チャリティ参加費1000円 留学生無料	毎年恒例の日本語スピーチコンテスト。留学生が「日本に来て思ったこと、感じたこと」を率直に話します。日本を見直す絶好の機会ですので、ぜひ聴講にお越しください。ご参加者にも審査いただきますのでよろしくお願い致します。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	11日(土)	西区	第5期JAFSアジア市民大学 第3回 中国「わが道」を行く 習近平体制の中国	14:00～16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	一般2400円 会員2000円	元朝日新聞アジア総局長・中国総局長の加藤千洋氏が、ウクライナ・ロシア問題を契機に緊張が増した米中関係、台中関係などアジアの現状と今後について話します。 ●窓口：事務局 柿島 090-1021-6834
	14日(火)	西区	第406回JAFSそうすいの会	12:00～13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員15名	最近のアジアの現況について、スタッフまたはアジアからの留学生が報告します。美味しいそうすいを食べながらアジア現地への井戸支援を行います。 ●窓口：事務局 柿島 06-6444-0587

14日 (火)	西 区	ワンコインセミナー「マジックも楽しめる！色にまつわるいろいろな話」（皆が驚く初耳学）	15:00 ～ 15:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：マジック流色彩教材クリエイター 濱崎 佳尚 目の前30cm程の至近距離で繰り広げられる色彩変化などの テーブルマジックを楽しみながら、日常生活や仕事に役立つ 色彩心理の効果をお聞きます。 ●窓口：事務局 鳥居 090-5663-6123	
16日 (木)	未 定	第23回JAFS道楽の会 ウォーキング	未定	未定	1000円	ウォーキングに参加することでアジア支援のチャリティ募金 を行います。 ●お申込・お問い合わせ：石原 090-1134-3085	
18日 (土)	関 東	ウクライナの平和のために奏で るショパンの名曲～瀬田敦子 チャリティコンサートin久我山 教会	14:00 ～ 15:40	日本キリスト教団久我山教会 京王井の頭線久我山駅より徒歩6 分	前売り料金 一般:2500 学生:2200 ペアチケッ ト:4,000	ロシアの侵略で甚大な被害を受けているウクライナの人だ ちに、平和と安全な暮らしが一日でも早く訪れるように、願 いを込めて行うチャリティコンサート。コンサート終了後は、 瀬田さんとの懇話会も予定。瀬田敦子さんは、20年に渡る JAFSとのチャリティコンサートと音楽配信を通じ、アジアの 貧しい子どもたちのための、社会貢献活動にも取り組んでい ます。ぜひご参加ください。	
23日 (木・ 祝)	京 都 市	バザールカフェ フィエスタ	13:00 ～ 16:00	日本キリスト教団久我山教会 京王井の頭線久我山駅より徒歩6 分	無料	毎年恒例のバザールフィエスタ、今年も開催！ アジア・中東各国料理、雑貨、音楽…国籍も宗教も年齢も性 別も越えて、みんなでつくるフィエスタです。京都地区会が 出展します。当日ボランティア大募集！	
25日 (土)	平 野 区	JAFSなにわ南地区会主催 第6回ノアノアフエスタ ノアノアカフェ映画会&パー ティ	10:00 ～ 14:00 (予定)	〒547-0012大阪市平野区長吉 六反3-1-32 アークショップノ アノア（大阪メトロ谷町線長原 駅より徒歩約8分）	1500円 (昼食付)	就労継続支援B型事業所アークショップノアノアにカフェが オープンされ、なにわ南地区の活動拠点として活動が行われ ています。今回はフリヒンで1996年から多くの方々のご 協力で5年間かけて完成した水道プロジェクトの実話に基づ く劇場映画「セカイイチオイシイ水」を鑑賞し、安全で衛 生的な水の大切さについて共に学びます。また楽しいアトラ クションで心豊かなときを過ごします。 ●窓口：JAFSなにわ南 柿島 090-1021-6834	
25日 (土)	京 都 市	なにわ西チャリティウォーク 洛北散歩「紅葉の岩倉実相院と 岩倉具視旧邸等」	12:30 ～ 16:00 頃	12:30叡山電鉄出町柳駅改札口前 集合	2000円 (岩倉実相 院と岩倉具 視旧邸拝観 料含む)	紅葉の名所である岩倉実相院門跡（天台宗寺門派の門跡寺 院）とその傍らの岩倉具視の旧邸、さらに珍しいインド式 の仏舎利のある妙満寺を散策します。 尚、妙満寺本坊（雪の庭 等）を拝観の場合は、別途600円になります。 ●お申込・お問い合わせは：なにわ西地区 伊藤：090- 2410-5529 mail: ito.masaru320@gmail.com	
26日 (日)	高 槻 市	JAFS高槻チャリティウォーク 紅葉の神峯寺を散策します	11:00 ～ 15:00 (予定)	高槻市原3301-1 JR高槻駅北1 番のりば53系統原大橋行きバス (約20分乗車) 神峯山口下車山 道徒歩30分（JR高槻駅北口 11:00集合）	1000円 (環境保全 費300円含 む)	高槻北部の自然豊かな山中にある神峯山寺は1300年の歴史 を持つ名刹で紅葉の名所です。真っ赤に染まった紅葉と静か にたたずむ古刹とのコントラストを愛でながら共に秋を自然 を満喫しませんか。※持参品：お弁当・お飲み物 ●窓口：JAFS高槻 柿島 090-1021-6834	
12月	1日 (金)	西区	アジアフレンドシップ国際基金 第6回チャリティーコンペ	9:00 キャ ディマ スター 室前集 合	参加費は 19,440円 (プレー代 13,900 円、協力金 3,000円)	アジアフレンドシップ国際基金のためのゴルフコンペです。 *アジアフレンドシップ国際基金とは、JAFSの理念実現 を目指して、アジアのネットワーク活動の強化結束を図るた めの基金です。定員は5組20人（先着順）。 申し込みは11月9日までに事務局岡本へ。	
	9日 (土)	西 区	第5期JAFSアジア市民大学 第5回 イラン 「メディアに振り 回されないイラン情勢」	14:00 ～ 16:30	肥後橋官報ビル8階会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南よりすぐ	一般 2400円 会員 2000円	イラン人の母とイスラエル人の父からイランで生まれ、 1972年に来日以来、美術展や料理教室、講演会などを主宰 されているタリア・アナヒアン氏が、マスメディアに振り回さ れないイランの現状と歴史の真実についてイラン人の立場で 赤裸々に語ります。 ●窓 口：事務局柿島 090-1021-6834
	12日 (火)	西 区	第407回JAFSそうすいの会	12:00 ～ 13:00	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	最近のアジアの現況について、スタッフまたはアジアからの 留学生が報告します。美味しいそうすいを食べながらアジア 現地への井戸支援を行います。 ●窓口：事務局 柿島 06- 6444-0587
	12日 (火)	西 区	ワンコインセミナー「マジック も楽しめる！色にまつわるいろ んな話」（皆が驚く初耳学）	15:00 ～ 15:40	肥後橋官報ビル5階JAFS会議室 大阪メトロ四ツ橋線 「肥後橋」駅1-B出口南へすぐ	500円 定員 15名	講師：マジック流色彩教材クリエイター 濱崎 佳尚 目の前30cm程の至近距離で繰り広げられる色彩変化などの テーブルマジックを楽しみながら、日常生活や仕事に役立つ 色彩心理の効果をお聞きます。 ●窓口：鳥居 090- 5663-6123
	17日 (日)	天 王 寺 区	第8回 アジアン・チャリティ・ フェスティバル 【共催】大阪国際交流センター	11:30 ～ 17:00	大阪国際交流センター 2階大会議 室さくら、3階各会議室（大阪メ トロ谷町線・千日前線 谷町九丁 目5番出口より600m、近鉄 大 阪上本町14番出口より400m）	チャリティ 前売入場券 1000円(当 日券1200 円)	ウクライナ人歌手によるウクライナ報告と民族舞踊はじめ、 ウイグル民族音楽など国際色豊かな多彩な舞台とアジア雑貨 などのお店、飲食を楽しみながら、在関西のアジア系市民・ 留学生とゲームなど通して広く交流します。 ●窓口：第8回 アジアン・チャリティ・フェスティバル実行委員会 TEL:06-6444-0587
23日 (土)	平 野 区	JAFSなにわ南地区会主催 第7回ノアノアフエスタ ノアノアカフェクリスマスパー ティ	10:00 ～ 14:00 (予定)	〒547-0012大阪市平野区長吉 六反3-1-32 アークショップノ アノア（大阪メトロ谷町線長原 駅より徒歩約8分）	1500円 (昼食付)	就労継続支援B型事業所アークショップノアノアにカフェが オープンされ、なにわ南地区の活動拠点として活動が行われ ています。今回は子どもたちも招いて楽しいクリスマスパー ティを開催します。共に心豊かなときを過ごしましょう。 ●窓口：JAFSなにわ南 柿島 090-1021-6834	

●緑とふれあう農園の作業日

<場所> JR星田駅より徒歩8分 10/14(土)、10/28(土)、11/11(土)、11/25(土) 午前8時～11時
12/9(土)、12/23(土)、1/13(土)、1/27(土)、2/10(土)、2/24(土) 午前9時～12時
<内容> 季節の野菜を植えて育てます。緑を育てる楽しさを共に分かち合いましょう！はじめて参加される方は事前連絡ください。

♥「もったいない」のきもちを社会貢献へ♥

JAFSでは以下のものを集めています。ぜひ、ご協力をよろしくお願いいたします。

〇書き損じハガキ、切手(未使用・記念切手可)、外貨コイン：事務局の通信や、JAFSの活動に使わせていただきます。
〇服、アクセサリ、カバン等：買ったけど敬回しか使っていない。でも捨てられないものありませんか。

お問い合わせ 06-6444-0587 JAFS事務局

断捨離 × 国際協力

もったいないを力に！

寄付いただいた物品は、チャリティーショップ KANAU で販売。
その売上がアジア協会の支援活動に役立てられます。



洋服(春・夏服)



鞆



本/CD/DVD



服飾品



アクセサリ

ジョール等

問合せ・受付先 ▼ 火曜定休 10:00～18:00 JR 寺田町駅より徒歩 10 分

KANAU



〒544-0025
大阪市生野区生野東 2-2-15

☎ 090-4161-0236(青木)

詳細 ▶



夢かなうチャリティーショップ

新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。（敬称略・50音順）
2023年6月1日～8月31日

●社員会員
谷津都萌子

●維持会員
猪口薫／越智翼／甲北病院／田中英夫

●賛助会員
宇田義徳／中村喜美子

会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。（敬称略・50音順）

2023年6月1日～8月31日

なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、
1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

●社員会費

市川晃／大麻豊／奥田順／柏木道子／
金井英夫／川本裕子／暮部恵子／金剛
一智／坂口久代／崎野哲史／佐藤正隆
／佐野光彦／實清隆／清水茂實／末広
真樹子／田島高広／辰西幹夫／内藤能
／永島智子／平山隆史／福岡好嗣／藤
原道子／船戸康夫／松川一人／南野紀
美子／宮川眞一／谷津都萌子／吉田幸
子／吉田俊朗／吉田暢子／芳野徳洋／
渡邊喜久次／渡辺治彦

●維持会費

赤野孝一／上城戸清隆／天野澄子／荒
川雄毅／池谷和博／板谷静夫・博子／
一瀬由起子／伊藤ヒサ／伊藤雅子／猪
口薫／魚森清恵／江川美知子／大木洋
子／大須賀不出子／大山愛子／沖田耕
一／尾崎幸子／小田辺朋子／風早正夫
／川崎猷一／川崎なおみ／川副竹善／

岸久子／桐間郁子／日下千代子／栗山
拓／甲北病院／小林与子／斉藤保／坂
上やよひ／佐藤恵美子／佐藤正明／塩
谷真人／四國うどん讃岐路／篠塚達朗
／島田恒／清水泰尚／正法地真理子／
鈴木浩／関谷康子／大仁孝太郎／高橋
町子／瀧野秀二・三重子／竹中有香子
／巽正憲／田中守／谷山祐子／丹治純
子／辻本選手／出野聡司／苗村登美子
／中尾巧／中川寛子／中路信子／中谷
誠／橋本恵美子／西村清美／西村秀明
／橋本末子／濱崎佳尚／日阪栄子／久
富雅之／廣田恵美／深田陽／深谷春
男／古本靖久／堀内眞弓／本庄紀子／
本田伸一／前野芳子／増田愛子／三浦
寿子／三雲孝／水野礼子／溝渕むつ躬
／美濃岳／三宅律子／村田恭仁子／森
わか子／森山涼子／山口幸子／横手美
知代／吉田京子／吉田敬市／和田秀一
／和田義次

浅野行平／黒谷清文／黒谷侑子／大仁
孝太郎／鳥居京子／根津千枝子／山口
サカ子／山下泰之

●スリランカ・サルボダヤ支援会費
小澤勇／辻本選手／船戸康夫

●ネパール・バイオガス寄付
設楽宏幸

●ネパール・ピトゥリ基金寄付
熱田典子／島崎亨枝／マッララジャン
マン

●ネパール・ピトゥリ支援会費
大谷英一／大谷臣子／小川幸子／倉光
和之／小松朱美／前田美津代／前田豊
／宮本博幸／吉川照代

●ネパール栄養改善教育支援
小原純子／小原勉／佐伯希彦／佐藤正
行／東代清隆／渡邊瑠璃子

●ネパール学校建設支援寄付
関西電力労働組合京都地区本部／富田
林地区会／福永有花／渡辺治彦

●地球幸せ募金
小代利子

●助成金

○土と水と緑の学校事業
新宮市教育委員会生涯学習課

●東日本大震災復興支援寄付
元橋亮治

●災害等罹災者支援募金
仙野和子

●新型コロナウイルス緊急募金
大橋一同

●フィリピン台風被災者支援寄付

●賛助会費

天津貴志／栗野アツ子／安藤理恵／石
黒大圓／板原操／市來伴子／井上知紀
／植村史子／宇田義徳／延増保宣／大
門吉俊／大林昌子／大山利子／岡部雅
子／岡本眞理子／小川雄也／荻原万紀
子／加藤浩輔／金本秀紀／河合典子／
川瀬眞知／上林喜久郎／北崎忠良／木
原輝子／久保佑治／倉田節子／近藤利
則／駒井隆夫／小美野広行／紺野敏雄
／斉藤修一／佐藤小苗／佐藤雅美／三
本松三津江／品川壮／仁義修・千春／
杉本明子／瀬田敦子／高橋温子／瀧川
真紀／竹井智子／竹内花子／谷奥恵／
谷口辰雄／クンバルカイラシユ／
長知子／寺田眞理子／寺林公子／永井
博記／永井三千彦／中川佳子／永菅裕
一／中村喜美子／檜崎しのぶ／難波正
明／西野修平／西林文／能勢圭子／服
部健史／服部美代子／花房逸子／林昭
宏／原京／藤岡朋子／藤田知子／藤本
夕衣／藤原明朗／藤原和子／堀江直／
前田拓／水江美保／溝上富夫／三田村
英宗／宮川真理／村井昇／村上健治／
森恵美子／森正廣／森川佐和子／山尾
修／山川清／山口妙子／山田俊朗／山
道祐子／山本正美／吉野和康

●団体会費

大阪松下幸之助経営を学ぶPHP友の
会／寝屋川教会賛助会／(社)はたらく馬
牧場

●法人賛助会費

イオンリテールワークスユニオン／
(社)福一／一粒福祉会／岡三証券(株)／
クレコス／清教学園(株)デュアルエデ
ュケーション／(一財) Dream 財団
／寝屋川教会／(株)ビケンテクノ／ユニ
チカユニオン

●里親会費

明見勝好／石神誠／石原基義／一瀬由

起子／井上修二・晶子／上田慎子／大
水光美／大本和子／岡部雅子／鹿島恵
美／柏木道子／鎌田勝江／川上礼子／
川崎隆二／北原祐司／倉野茂樹／小林
与子／今野裕章／佐藤道代／塩谷真人
／塩月裕朗／清水泰尚／下村蓮実／白
石敦士／高瀬稔彦／高山恵理子／田中
和子／田中衣子／寺山正道／西優子／
西澤純／西山美菜子・千晶・敦記／林
芙美子／ビッグマリオン学院奈良教室／
久富雅之／檜原敏之／平井静／平瀬美
智子／洋野町国際交流協会／本田伸一
／南貴子／宮城薫／武藤英利矢／森恵
美子／森下正志／山尾修／山川清／山
中康／横手美知代／吉田幸子／吉田暢
子／吉松浩一／渡部司

●コスモニケタン指定

甲北病院

●一般寄付

熱田親憲／税理士法人Ango／大久保
洋子／カトリックイエズス会／金
井英夫／兼松利木雄／川本順子／
Zoshtajun／暮部恵子／柴村壽子／
近藤眞徳／坂口久代／櫻井紘哉／佐藤
文昭／佐藤正隆／佐野光彦／實清隆／
清水亜希／杉崎仁志／杉本牧子／ソフ
トバンクつながる募金／館野晶光／
田中まさこ／チャリティーショップ
ZAMU／鳥居建十／(一財) Dream
財団／永島智子／西田貞之／西元宏美
／橋羽和樹／藤原正昭／船戸尚子／眞
砂哲志／松本和也／三井一道／宮川眞
一／宮田安希子／宮野谷篤／村上公彦
／柳井一朗／吉田俊朗／吉松浩一／渡
辺治彦

●井戸指定（水支援）

大阪マラソンチャリティー／角英樹

●井戸建設積立

(財)エサント／JAFSぞつすいの会
／ゆりかで幼稚園

●井戸建設指定

○カンボジア
イオングループ労働組合連合会／(株)渡
すい住設／花巻北ロータリークラブ／
楊錦華

○スリランカ
姥名健仁／楊錦華

○ネパール

中村芳喜／姥名健仁／JAFS尼崎井
戸の会／出口豊子／天野サロン

○フィリピン

京セラ労働組合本部／楊錦華／(株)トラ
スキー

●アジア・ネットワーク奨学会費
村上公彦／上野孝一

●アジア・フレンドシップ募金寄付
アンサンブル荒木／JAFS歩く会／
杉山奈美

●アジア・ユースサミット寄付
熱田典子／明見勝好／熱田昭子／熱田
親憲／イオンリテールワークスユニ
オン／小原純子／佐藤眞子／(株)デュア
ルエデュケーション／根津千枝子／JA
FSネパールへのかけ橋／島山ひろ
み／藤原正昭／マッララジャンマン／
山口妙子／吉田俊朗／渡辺治彦

●アジア・子ども支援寄付
松尾慶治

●インド・HIV子どもと家族支援会費
苗村登美子

●フレンドシップ国際基金
AFSインドグループ／時事懇話会

○ネットワーク支援会

第4回「日本語スピーチコンテスト」出場者・聴講者大募集！！

毎年恒例の日本語スピーチコンテスト。留学生が「日本に来て思ったこと、感じたこと」を率直に話しま
す。お知り合いの留学生に、出場をお勧めください。また日本を見直す絶好の機会ですので、ぜひ聴講にお越
しください。聴講の方にも審査いただきますので、よろしくお願いします。

開催日時 2023年11月5日（日）14:00～16:30（13:30受付）

会場 大阪国際交流センター 小ホール（大阪市天王寺区上本町8丁目2-6 TEL: 06-6772-6729）

大阪メトロ谷町線・千日前線 谷町九丁目駅 5号出口より600m、近鉄大阪上本町駅 14号出口より400m

出場者募集

- 講演テーマ：「日本に来て思ったこと・感じたこと」または「アジア（祖国）と日本」
- 時間：1人5分
- 募集人数：10名程度
- 出場者資格：日本語を母語としない留学生（大学・専門学校等）、年齢・性別不問、原則としてアジア出身者
- ＊出場者の交通費は主催者が負担します。
- 表彰：最優秀賞・優秀賞・奨励賞（賞状並びに副賞（記念品））
- ＊最優秀賞の内容は、会報アジアネット2024年冬号に掲載いたします。

- 審査基準：①内容 ②表現力 ③日本語力
- 応募方法：下記までお電話またはEmailでご連絡ください。
折り返し応募用紙をお送りいたします。
- 応募用紙提出締切日：2023年10月16日（月）

聴講者募集

- チャリティ参加費：1,000円（出場者の交通費など実費に充当します）

<主催> 公益社団法人アジア協会アジア友の会

<共催> 公益財団法人大阪国際交流センター

<後援> 公益財団法人大阪国際交流財団

<お問合せ・お申込み> JAFS事務局 柿島 TEL: 06-6444-0587 Email: kakishima@jafs.or.jp

災害対応チームメンバー募集！！

JAFSの主な活動に災害地の罹災者支援活動があります。災害が起きたときに緊急支援対応できる「災害
対応チーム」のメンバーを募集します。元自衛官、医療従事者の方をはじめ、トラックの運転、炊き出し経
験有など、JAFSの活動に参加くださる方、JAFS事務局（熱田）までご一報ください。

育て受け継いだ40年の底力



「土と水と緑の学校」4年ぶり復活

土の上で綱引きを楽しむ8月7日、和歌山県新宮市

コロナ禍で中断していた自然体験学校・第40回土と水と緑の学校（以下、土水）が8月4～8日、和歌山県新宮市高田で4年ぶりに開校されました。地元新宮市はじめ姉妹都市宮城県名取市、大阪ほかの小中学生41名が参加。ハイキング、カヌー、鯨ウォッチングなどの野外活動を、13名の学生リーダーと共に5日間合宿で体験しました。多くの皆さんの思いを受け継ぎ、この40年間で2993人が土水を修了したことになります。改めて土水の大きさに驚くとともに、柱となるコンセプトをほとんど変えていない1つのプロジェクトが、重大事故もなく続けてこられたということが、どれほど多くの方々の支えによるものなのかということとを、つくづくと感じました。

土水がない夏を3年も過ごしたことにより、一時は、リーダーや本部ボランティアが十分に集まるのかという心配ばかりしていましたが、ふたを開けると、参加したことがあるリーダー、ジュニアリーダーを中心に初めての方も加わって体制を組むことができました。本部ボランティアにも過去に土水に関わったことがある人が多く集まり、同窓会の様相を呈しながら、子ども

ものために和気あいあいと力を合わせて盛り上げることができました。これまで土水本部として使わせていただいていた旧高田公民館が、老朽化により使うことが難しくなり、初めて高田中学校を本部として使わせていただきました。個人的には寂しさを感じつつも、1つのターニングポイントなのであるうと思っています。

私自身は小学校4年生のときの第2回から、第6～10回を除いてすべて参加しています。この間、自分がリーダーをしたときの参加者が自分と一緒にリーダーをする姿を見て成長を感じた。参加者が親になり、その子どもたちが土水に参加してくれるという、土水のつながりに感動を覚えました。

今回は、自分がリーダーをしたときの参加者の子どもがジュニアリーダーを務めてくれました。私の長男も今年小学校4年生で、初めて参加することができました。本当に世代を超えた土水を感じる年になりました。

コロナ禍を経て土水が開催できたのは、参加してくれた子どもたちはもちろん、新宮市やJAFSの取組みに加え、リーダー・ジュニアリーダーや多くのボランティアのおかげです。改めて感謝しているところです。

来年も多くの皆さんと土水で再会できることを楽しみにしています。（JAFS会員

赤嶋崇ニツクネーム…みどろ）

編集後記

今夏4年ぶりに「土と水と緑の学校」を開催しました。

生憎の雨ながらも皆元気で無事に開催できたのはひとえに再開を待ちわびていた元リーダーのボランティアの熱意と地元の皆様の支えの賜物だと実感しました。（裕）

A YSのテーマは「平和」だった。基調講演で「平和とは何か」は人によって違うと話された中、特別講演でウクライナ医学生は「普通に学べるのが学生にとって平和」であると話された一言一言に重みを感じた。（典）

今年の夏は常識を超える暑さでした。皆さんお元気でしたか。いつも暖かいご支援ありがとうございました。今後も、アジアの子どもたち、貧困で苦しむアジアの人たちの身に自分を置き換えて考え、ご支援よろしく。（金）

9月に「バリ島のマンガローブと棚田とごみからサステナブルを考えるエコツアー」に行きました。オンライン交流や報道・ネットではつかみ切れない実態を生で体験し、未来を考えました。次号でお伝えします。（川）

鬼 百合の花が枯れ、ススキの穂が風に揺れている。大阪・光明池（35分）周辺の遊歩道。戦前、山をツルハシで削り、堤防に運んだ危険な作業で亡くなった朝鮮人労働者十数人の慰霊碑が建立されています。（敏）

環境コラム

処理水放出と風評被害

福島第一原発から処理水の放出が開始され、この原稿を書いている今、風評被害を恐れる漁師さんたちの反対の声や、日本からの海産物輸入を中止する外国の動きなどが、報道で連日取り上げられています。一方、風評被害が起これぬよう、安全基準を守って処理水が放出され環境への影響もないという科学的データを示す政府の姿も報道されています。風評被害とは、事実や科学的根拠に基づかない、なんとなく不安な気持ちを持つ人間が加害者になってしまうものです。

放出反対の様子ばかり取り上げられると、悪いことが行われているのではないかと不安になりかねません。また安全と言う側も、科学的に基準を満たしているから信じなさいと言うだけでは、全ての人の不安はぬぐい切れないと思います。なぜ安全と言えるのか、どう大丈夫なのか、もう一步説明を加えれば不安が減る人もいるだろうに、と私が思う2点①②を説明してみたいと思います。

積極的に調べると、関係省庁が様々な資料を公開しています。私は放射性物質の体内動態について実験経験があり、放射線業務従事者教育訓練も受けていたので、多少馴染みがあることから、公開資料を基にシンプルに伝えるを試みます。

①トリチウムって何？：自然界の水素原子の99.9%以上の原子核にあるのは陽子1個のみです

入会・寄付ご案内

会員となつて継続的に支援くださることで、安定した活動計画ができます。ご協力をお願いいたします。

A. 維持会費	年額1口	12,000円 (月額1,000円)
B. 賛助会費	年額1口	6,000円 (月額600円=振込手数料含む)
C. ジュニア会費 (高校生まで)	年額1口	1,000円
D. 団体会費	年額1口	20,000円
E. 法人賛助会費	年額1口	50,000円

会費・寄付の振り込み先

三菱UFJ銀行中之島支店 普通1007011 または 楽天銀行リズム支店(209) 普通7006892 【口座名 シャ) アジア協会アジア友の会】

事務局長交代のお知らせ

この度、専務理事兼事務局長の村上公彦が事務局長を退任し、新たに熱田典子が事務局長代行に就任しましたので、お知らせいたします。新たな事務局体制で職員一体となってミッション実行に努力して参る所存です。皆様の変わらぬご支援、応援を賜りたくお願いいたします。



募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で
貧困に苦しむ人たちを支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5階

☎ 06-6444-0587 FAX 06-6444-0581 E-mail asia@jafs.or.jp

URL: <https://jafs.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/JAFS.NGO/>

2023年10月 155号 発行人：篠原勝弘 編集人：熱田典子

広報企画委員長：法花敏郎

編集アドバイザー：松本 督、黒沢雅善

編集スタッフ：熱田典子、大本和子、柿島 裕、金井英夫

川本裕子

印刷製本：あさひ高速印刷株式会社



HPもご覧ください

外国人に興味津々!? 日本からのワー
クキャンプ参加者に、教室の窓から身
を乗り出して手を振る小学生たち Ⅱ 6
月23日、カンボジア、タケオ州トレア
ン郡のサモールクロム小学校

◀表紙の写真 「水が出たぞ! きれいな水だ」。新しい井戸のポンプに歓声を上げて飛びつくフィリピン、ヌエバエシハ州カラングラン町ブンガ村。14 頁 17 頁 ページに記事「井戸ができた村」